

■ 建築物の耐震改修の促進に関する法律第9条の規程に基づく耐震診断結果の公表資料【防災拠点・避難所】の見方

□ 用語の解説

●  $I_s$ 値とは？

構造体の耐震性能を表す指標

●  $I_{so}$ 値とは？

想定した地震動レベルに対して、建築物が安全であるために必要とされる目標値

$$I_{so} = 0.6 \times Z \times G \times U \quad (\text{備考欄に特記なき限り、} Z = 0.9, G = 1.0, U = 1.0)$$

● CTU・SD値またはq値とは？

構造体の粘り強さ、建築物の平面、立面形状等から求まる耐震性能に係る指標

● Z、G、U値とは？

地域指標（地震活動度、地震強さ等）、地盤指標（地盤、地形、建築物の振動特性等）、用途指標（建築物の用途・重要度等）から目標値を補正するための係数

□ 構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果の解説

表に記載されている  $I_s$ 値、 $I_s/I_{so}$ 値、CTU・SD値及びq値は、当該建築物の各階及び各方向（X・Y方向）における最小値です。

□ 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の解説

表に記載されている  $I_s$ 値、 $I_s/I_{so}$ 値、CTU・SD値及びq値が、附表の『構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性のⅠ、Ⅱ、またはⅢ』のどれに該当するかを確認します。

附表 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
	Ⅰ 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する <b>危険性が高い</b>	Ⅱ 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する <b>危険性がある</b>	Ⅲ 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する <b>危険性が低い</b>
(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)	$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq I_s/I_{so}$ かつ $1.0 \leq q$
(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版、2017年版)	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $CTU \cdot SD < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq CTU \cdot SD$

※ 構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性については、震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示します。

いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生じることや倒壊するおそれは少ないとされています。